



ロボット活用の未来を拓く 企画、開発、サポートまで一貫対応

(株)F-Design 代表取締役 藤本 恵介氏

F-Design (緑区西橋本) は、自動車関連の受託製造やロボットを活用した省力化事業を展開する企業です。製品の企画から機械・電気・ソフト設計、プロダクトデザイン、サポートまで一貫対応できることを最大の強みとしています。2010年4月にさがみはら産業創造センター (SIC) へ事務所を移転し、20年7月には福島県南相馬市にも開発拠点を開設。その後はオリジナル製品「汎用 (はんよう) ロボットベース」を開発するなど、攻めの経営を続けています。今回は同社の藤本恵介社長にインタビューしました。

■現在力を入れている事業領域について教えてください。

「メイン事業は省人化・省力化の提案です。ロボット活用も含まれますが、あくまでさまざまなアプロー

チの一つという位置づけです。たとえば生産方法を変えるだけで効率化できたり、工具を工夫するだけで省力化につながったりするケースもあるからです。一方、ロボット活用の

提案例としては、工場で人が運んでいたものを、ロボットと装置の組み合わせで自動搬送するシステムなどがあります。『工場のこの部分を改善すれば、このようなロボットが導入できます』といった、ロボットが活躍できる現場づくりをサポートすることが私たちの重要な仕事と考えています」

■御社の強みをお聞かせください。

「プロダクトデザイナーが複数名在籍し、デザイナーとエンジニアが密に連携してものづくりを進められることです。これにより、短納期が



1 洗練された事務所入り口
2 顧客ニーズに応じた提案の一例 (顧客の技術を見える化した展示用ロボット)



3 汎用ロボットベース「令和4年度きらりと光る産業技術大賞」を受賞
4 戸田建設・相模原市との協定締結式 (写真はプロジェクトに参画する協議会メンバー) 協定締結式の詳細はP14

つ高品質なものづくりを実現しています。企画から設計・開発・サポートまで一貫して対応できるのも強みです。また、デザインでは見た目だけでなく、使い勝手などの機能面も重視します。工業製品は格好よい外観だけではユーザーによろこんでもられません。そのため、開発の初期段階からデザイナーとエンジニアが共に考えることを大切にしています。産業用機械でも、使用する装置の見た目がよいと愛着が湧き、モチベーション向上につながると言われています。やはりデザインは重要です」

■今後はどのように事業を伸ばしていく計画ですか。

「最近では、電力会社向けの施設巡回用ロボットや工場の特典部分を掃除するロボットなどを一から手掛けました。今後はロボットを軸とし

つつ、OEM (相手先ブランド生産) を含む部品の量産案件を増やしていきたいと考えています。量産案件は一度開発すれば安定的な売り上げを確保できるからです。同時に、人工知能 (AI) なども活用し、常に新しい情報を更新しながら使ってもらえるモデルも検討しています。5年後を目標に、売上高構成比を受託製造2割、量産案件8割まで持っていきたいと考えています」

■今年4月に「さがみはらロボットビジネス協議会」の会長に就任されました。抱負をお聞かせください。

「今後は協議会として単独で動くのではなく、飲食やサービス業といった異業種とも連携し、地域全体を巻き込んでいくことが大切だと思います。その一環として、当会は相

模原市、戸田建設と、市役所本庁舎のエレベーターとロボットをシステム連携させ、フロア間を移動させる実証実験を通じてロボットが円滑に活動できる環境をつくる『ロボットフレンドリーな環境構築に係る実証事業に関する協定』を結び、6月10日に締結式を実施しました。ロボットは産業分野だけでなく、日常生活の困りごとにも大きなニーズがあるはずです。相模原に協議会があることで、地域がハッピーになるような取り組みを進めていきたいですね」

(株)F-Design

〒252-0131
相模原市緑区西橋本5-4-30
さがみはら産業創造センター
SIC-2 R&D Lab. 2215号室
TEL : 042-770-9607
<https://f-ds.jp/>